

●秋深し忽然と子は消えゆきぬ

谷垣満壽子

忽然、を思わずしらべてしまった。辞書（『新明解国語辞典』第五版）では、突然何かが現われたり消えたりすることを表わす、として、消える例を載せている。忽然として。句では、戸惑いがみえる。突然に二女を亡くしてしまったと同号短評にある。秋深し、には人事がつづくようだ。タイトルの句は、次の通り。

秋の夜や逆縁に唯痛哭のみ

始まりから終わりまでをみてしまった、とじぶんが、長男をなくしたときにおもったことだが。よくないことである。逆縁という言葉のむずかしさもある。ことばでする深い嘆き。ながくつづくことになる嘆き、とその日一日の現れ。

ひもじさも今は懐かし終戦日

むら雲に隠れ現れ今日の月

●三日月が風雨に揉まれ弱い私

新野祐子

弱い私、に立ち止まってしまふ。強い私、では句にならないようだ。なぜだろうか。もっているものがあるからだ、とひとまずおもう。上二句はひとまず大自然。ただし夜、それも満月でないところ。そこから、弱い、に同調感がある。弱い私、はそう出てこない表現。

台風一過デメテルの帰り来よ

デメテルはデーメーテルでギリシア神話の女神のこと。豊穰神であり、穀物の栽培を人間に教えた神とされる。古典ギリシア語で「母なる大地」を意味する、ともいう。句は一時に失われたものの回復（復旧）を祈るものだが、その視野は広い。この年規模のおおきな台風の襲来があった。被害についてもしるところ。調子のよさもある。調子のよさは次の句にもある、

ふるさとの誰そ彼淡し赤まんま

ふるさととのかかわり方、ということでもある。赤まんま（犬蓼）、で秋の季語。

●アキアカネ朝の冷気に止まりゐて時間を共にす起き抜けの吾と

布宮慈子

アキアカネ（秋茜）は、俗に赤トンボ。朝の冷気とうごきを止めていたか。こちらも、起き抜けでまだそう動けないところ。同時代性ということばがあるが、ここでは同時代性のようなものを感じたのだろうか。当然ながら秋の歌でもある。囁目としてのアキアカネ、という感じもない。共振がある。

澄んである空気の中を行くときにわれも澄みたり透明な秋

秋の説明でもあるような。澄み、と透明な、が重なりあっていて、ある種反復感がある。余り足していないところ。こういう歌は連作のなかに置かれるといいようだ。短歌としての調子もいい。呼吸のリズム。わが影はわれを離れずそろそろと付いてきてをり夜の散歩に

●明け方の路地は濃霧に覆われてゴミ出しまでを中に入りゆく

市川茂子

住宅街に早朝、濃い霧が立ち込めている。ゴミ出しというありふれた行いのだが、霧の中に入っていく様子はどこか不思議な世界への入り口のように思えてくる。意図したかどうかは別にして、事実とすれすれの感覚を味わうことができる歌だ。

庭見えて鉢植えのバラ丈高くほつほつ咲けり秋から冬へ

よその庭に見える鉢植えのバラの花がほつほつと咲いている、秋から冬へ変わっていかうとしている。今。そんな何でもない写生の歌だが、少ない花の数から季節の変化を感じさせ、味わい深い。冬へと向かう寂しさとし心構えを自分に言いかけさせているようにも取れる。「庭見えて」の「て」を使わないように、もうひと工夫するといいかもしれない。

●長々と鰐のかたちの浮袋腹みせている九月の庭に

小野澤繁雄

夏が過ぎ、庭に取り残された浮袋はワニの形にふくらんだままひっくり返っている。もう九月なのだ。他家のことだろうが、どこかやるせない気分を含みながら、子どもが遊んだ夏の余韻を表現している。

ささえられ存続中の館に観る議論の中の「ニューヨーク公共図書館」

「存続中の館」とは、なんとか閉館にならずに存在している映画館なのか。そこで「ニューヨーク公共図書館 エクス・リブリス」を観たのか。いや「館」は映画の中の図書館のことだろうか。どちらにも解釈できるように思う。これは、フレデリック・ワイズマン監督によるニューヨーク公共図書館に関するアメリカのドキュメンタリー映画。カメラは図書館の内側に入り、いかに予算を確保するのか、いかにデジタル革命に適応してサービスしていくかを議論する幹部たちの姿を見せる。ボランティアも多い。「世界中の図書館員の憧れの的であり、ニューヨーク有数の観光スポット」というのもうなずける映画だった。

●遠く近くに眺めて心安らげしかの千曲川の無残映さる

河村郁子

「台風あとさき」と題した一連。作者の思いがこもっているからか、最初の七音は気にならない。昨年十月に起きた千曲川の決壊は新幹線の車両センターにも大きな被害をもたらした。その映像を見ながら、過去に心穏やかに川を眺めた記憶を思い起こしたのだろう。ちなみに千曲川は長野県を流れる川で、新潟県に入ると信濃川と呼び名が変わるそうだ。

政まつりごとに治山治水は基本理念インフラ日本ジャパンの面目ありや

いまの政治に危ういものを感じながらも叱咤激励しているのか。治山治水は災害列島として基本中の基本なのに、ダムに頼ろうとする利権争いのようなことが行われて久しい。熊本の地震や千葉の台風、大変な被害があったのに住民に対するケアは十分とは言えない気がする。